

摩周の恵みは
悠久の流れとともに
根室湾へ——。



Photo: Toru Nagai

2002 日程

5/11(土)	摩周水環境フォーラム	虹別酪農センター	受付9:30am 開会10:00am (参加料300円昼食代含)
5/12(日)	川の清掃日		
5/13(月)	第7回西別川流域コンサート	虹別酪農センター	開場7:00pm 開演7:30pm
5/14(火)	第7回西別川流域コンサート	中西別福祉館	開場7:00pm 開演7:30pm
5/16(木)	第7回西別川流域コンサート	別海町中央公民館	開場6:30pm 開演7:00pm
5/17(金)	第7回西別川流域コンサート	本別海地域センター	開場6:30pm 開演7:00pm
5/19(日)	第9回シマフクロウの森づくり百年事業植樹祭	集合場所 虹別酪農センター	9:30am

前売券

大人	2,500円	(当日3,000円)
高校生	500円	(当日700円)
小学生以下	無料	(保護者同伴)

音風流 森と妖精の世界 しらいみちよ

スペシャルゲスト	アコーディオン	白井 幹也
音職人	A. Guitar	小畑 和彦
	A. Bass	杉山 茂生
	Sax&Flute	藤田 明夫

永井 徹

西別川写真集【ヌウ】
出版記念販売

海産物・乳製品・特産品の原価販売 (貝類むきかた指導サービス)

5/13(月)	虹別酪農センター前	1:30pm~3:00pm (数量限定)	園芸用液体肥料無料提供)
5/14(火)	中西別福祉館	1:30pm~3:00pm (数量限定)	園芸用液体肥料無料提供)
5/16(木)	別海町中央公民館	1:30pm~3:00pm (数量限定)	園芸用液体肥料無料提供)

主催 西別川流域コンサート連合実行委員会

お問い合わせ/大橋 勝彦 TEL(01537)5-8372 携帯090-8905-2642

「西別川流域コンサート」を開催するにあたり

聖なる湖、摩周湖に起源を發し西別岳の麓、虹別に源流を持つ西別川は、標茶町をはじめ、別海町を越え根室半島まで、産業、文化はもとよりその流域で生活している私たちに多くの恵みをもたらしてきました。しかし、この聖なる西別川の流れも社会の発展により、下流部でも見られたバイカモは姿を消し、水量も減り、濁りも多くなっています。

21世紀地球規模での環境問題が1人1人に問われています。「静」と「自然との調和」をテーマとして、全国でコンサート活動を続けている、しらいみちよさんの弾き語りにも耳を傾けながら、みなさんと共に西別川について過去、現在、未来について考えてみましょう。

本年は、虹別から本別海までの流域4会場でのコンサートを企画致しました。

西別川の流域で村の守り神「コタンコロカムイ」(シマフクロウ)の鳴き声がいつまでも聞かれ日本一の鮭や牛乳が孫子の代まで川の流れのように続いてほしいと思います。

森を増やし、野生の生物を育み共存共栄することが現代に生きる私たちの責任であると共に次世代に引き継ぐ貴重な遺産でもあります。

別海町は、5月を「川を考える月間」、標茶町は「森と川の月間」に指定し、水や命の大切さを考える運動が動きだしています。又弟子屈町では、摩周湖を中心に世界自然遺産に登録する為の活動も始まりました。

私達の思いは一つです・・・・・・。

なお、実行委員会では、西別川の清掃を行うほか、昨年の第6回西別川流域コンサートでの収益金の一部150,000円を本年5月19日開催の第9回シマフクロウの森づくり百年事業植樹祭に苗木購入資金として使わせていただきます。

□後援／■別海町■標茶町■弟子屈町■環境省自然環境局東北道地区自然保護事務所
■(財)サンワみどり基金■(社)北海道野生生物保護公社■別海町教育委員会■標茶町教育委員会
■別海町森林組合■別海町川を考える月間実行委員会■NHK釧路放送局■(株)富山トラック
■(株)明盛建設■毎日新聞北海道支社■北海道新聞釧路支社■釧路新聞社■(財)北海道新聞野生生物基金
■道東ダイハツ販売(株)■(社)根室管内さけます増殖事業協会■標茶町農業協同組合
■上春別農業協同組合■計根別農業協同組合■中春別農業協同組合■別海農業協同組合
■別海漁業協同組合■野付漁業協同組合■(株)オーレンス■別海町商工会
■別海地区文化協会■西春別駅前体育文化協会■西春別体育文化協会■別海ロータリークラブ
■ゆとりの景観研究会プロスト■(株)大山産業■(株)吉岡組■(有)シーノ■スプリングクリーク
■一位の会■摩周湖世界遺産登録実行委員会■虹別コロカムイの会

□協賛／■標茶町観光開発公社「憩いの家かや沼」■(株)べつかい振興公社「郊楽苑」
■(株)明治乳業西春別工場■(株)森永乳業別海工場■(株)雪印乳業別海工場■(有)風牧場
■(有)カウベル■(有)頑固豆腐の竹田屋■日本ドナルドソン・トラウト研究所

主催 西別川流域コンサート連合実行委員会

虹別 実行委員長 舘 定宣/事務局長 大良枝理子 別海 実行委員長 木村 秀也/事務局長 田保 秀治
中西別 実行委員長 水本 信洋/事務局長 水本 節子 本別海 実行委員長 大橋 勝彦/事務局長 山村 勝彦

摩周水環境フォーラム開催要項

主 旨

聖なる湖、摩周湖に起源を發し西別岳の麓、標茶町虹別に源流を持ち、流れる西別川は流域に住んでいる私達に多くの恵みをもたらすと共に根室湾全体に豊かな漁場を作ってきました。

しかしこの恵みの流れも、産業の発展と共に水量も減少し、河川的环境も悪化して来ており、この様な環境を流域住民の手で少しでも昔の清流に近づけるべく、生まれはじまった、虹別コロカムイの会、西別川流域コンサート実行委員会が中心となり、シマフクロウの森づくり百年事業植樹活動を行っています。更には漁協婦人部や、多くの団体、個人の協力のもと、大きな広がりとなっております。

この間、別海町は「川を考える月間」、標茶町は「森と川の月間」、弟子屈町は「摩周湖世界遺産登録実行委員会」を設立し、世界自然遺産登録への熱い思いの運動がスタートしています。

このような中、三町のみならず、さらなる大きな運動の輪となる様、このフォーラムを開催します。

主 催 西別川流域コンサート連合実行委員会

後 援 弟子屈町、標茶町、別海町

日 程

日時5月11日 開催会場 虹別酪農センター

9:30 ~ 10:00	10:00 ~ 10:30	10:30 ~ 11:30	11:30 ~ 12:30	12:30 ~ 13:00	13:00 ~ 14:00	14:00 ~ 14:15	14:15 ~ 14:45	14:45 ~
受 付	開 会 式	基 調 講 演 (内田豊氏)	パ ネ ル デ ィ ス カ ッ シ ョ ン	昼 食	パ ネ ル デ ィ ス カ ッ シ ョ ン	ミ ニ コ ン サ ー ト	閉 会 式	西 別 川 見 学 解散 ※バスにて移動

※昼食代として参加費300円

講 師

内 田 豊 氏プロフィール

1965年神奈川県生まれ。千葉県市川市在住

鎌倉高校から日本大学文理学部応用地学科を経て山一証券に入社。

ISO9001コンサルタント。現在にいたる。

小学6年生時に中標津で3週間のキャンプ生活したのをきっかけに北海道の大ファンとなり、とりわけ摩周湖の魅力に惹かれる。

日本大学応用地学科では、河川、湖を専攻し、卒業研究では摩周湖から漏れ出る湖水が周辺湧水として湧き出ているという伝説の科学立証に取り組んだ。

趣味は旅行、温泉。特に道東十勝の露天風呂は毎年20湯以上巡っている。会社員である傍ら、公開討論会支援NGO「リンカーンフォーラム」を主宰し公職選挙での公開討論会を全国に普及している。

コーディネーター

○本 間 浩 昭 (毎日新聞根室通信部記者)

パネリスト

- 内 田 豊 (講 師)
- 千 葉 健 (標茶町長)
- 佐 野 力 三 (別海町長)
- 徳 永 哲 雄 (弟子屈町長)
- 館 定 宣 (流域コンサート連合実行委員長)
- 桐 木 茂 雄 (摩周湖世界遺産登録実行委員会実行委員長)
- 望 月 透 香 (スプリングクリーク)
- 渡 辺 京 子 (別海漁協婦人部長)
- しらい みちよ (シンガー)
- 原 田 良 雄 (虹別連合振興会会長)

(順 不 同)

ビシュッ！ メンカクシの放った矢は空を切り裂いて熊の急所に突き刺さった。続いて第二矢！ しかし熊は怯まずに突進してくる。メンカクシはひらりと身を交して熊の背中に跨がり、腰の短刀を素早く抜き去るやいなや拳も通れと貫いた。手負いの熊は吼り狂い、摩周の頂きを踏み外して遙か眼下の摩周湖へ影をかすめて転がり落ちていった。この日、マシウ（現代のカムイヌプリ山）の頂きで年老いた豪熊と対決した釧路の酋長メンカクシは一代一度の功業を水泡に帰してなるものかと、碌々たる岩角に手を掛け、蔓にすがり、かろうじて湖岸に降りたったものの熊の姿は跡形もなかった。名誉を喪失したメンカクシは傷心の日々を送っていた。ところが摩周湖の南方三里程のところにヌウという沼があり（現在の西別川蛙・鱒ふ化場）、西別川の水源となっているがこの西別川の下流のニシベツプトというところにメンカクシの射止めた熊が流れついた。その証拠は熊の身に帯びた二筋の矢に印されたメンカクシの標であった。このとき初めて土人達はかの摩周湖が地中を潜り三里を隔てヌウに達しているのだと知ったのである。

これはアイヌの神話ではない。安政三年に厚岸に来ていた大内餘庵という医者が当時釧路地方にあった出来事の見聞を書き集めた『東蝦夷夜話』に記された実話で、摩周湖と西別川の湧泉の関係についての記録としては最初のものといえる。まさか熊がゴロゴロと転がるような巨大な横穴が開いているとは思えないが、西別川湧泉の豊富な水量や裏摩周展望台北6.2kmにある神の子池（摩周湖観光の穴場！）の不思議な色合いを見ているとどうやら摩周湖の水がもれているというのは本当らしい。それではそれを証明する方法はないだろうか？ 摩周湖の水だなんてなんともステキじゃないか！

現代の水文学者が使うメンカクシの熊といえばアイソトープを大量に流すのが手頃であろう。しかし世界一美しい神の湖にそんなものは絶対に入れたくないし、許されないことである。10年前に筆者が摩周を訪れたときに裏摩周展望台へむかう林道で出迎えてくれたエゾリスも道路の舗装によって姿を消した。神の子池林道の整備計画も進みつつある。自然愛護論をするつもりはないが、苦勞して頂きに辿り着いたときに眼下に広がる摩周湖の蒼さはまた格別である。秘境は遠くからそっと見守りたい。そして凡人の近付けぬ超越した存在であってほしい。しかし学問的興味とはまた別物であって、霧のベールに包まれたものならその向こう側を覗いてみたいものである。なるべく湖には触れずに科学の力でその謎に迫ることは出来ないだろうか？

本研究はそんな願いを込めて大自然と摩周湖をこよなく愛する筆者が、そしてやがては水文学とは無縁の社会へを巣立つ筆者が、学生時代の総決算として、純粹に学問的興味を追い続けることができる時代のフィナーレとして、あらん限りの力を投入した作品である。科学的的手法によるメンカクシの熊とは何であったか……。